



主催事業 若手教員道徳授業研修会 R6. 10. 30

町教育センター主催事業 若手教員道徳授業研修会を開催し、教職4年目の雄山中学校3年担任大坪亮太教諭に授業を提案していただきました。主題名は「法やきまりの意義」とし、教材「元さんと二通の手紙」を通して、法や決まりの意義を理解し、秩序と規律ある社会を実現しようとする道徳的態度を育てるといふねらいで授業が展開されました。「元さんと二通の手紙」は中学校では昔から大切に扱われてきた教材の一つであり、小学校でいうと「手品師」のような奥が深い教材です。「元さんがこの年になって初めて考えさせられたこととはどんなことだろう」という中心的発問で、自分の行動を振り返り、きまりの大切さを深く自覚していった元さんの心情に気付くように展開されました。

事後研では、班別にねらいに迫る場面について、授業記録を基に活発に議論する先生方の姿が見られました。最後に釜ヶ淵小学校松田校長先生から「導入では何を学習するかをはっきりと示す」「子供の発言と違うことは板書しない」「教師は子供の発言をすぐに引き取らず、子供に言い切らせるようにする」など、若手の先生方の心にしみる指導助言がありました。今回の研修を活かし、考え議論する授業を通して、素直に自分の生き方を見つめることができるような子供たちを育ててほしいと感じました。授業者大坪先生の振り返りです。

今までにここまで丁寧に教材研究を行ったことがありませんでした。多くの先生方とさまざまな視点から検討し、授業を作り上げることができたことに感謝します。また、授業はやりっぱなしではなく、さらに検討し改善をかけていくことも大切だと感じました。小学校の先生の授業を見せていただく機会がこれまでもありましたが、中学校では難しいと決めつけ取り入れてこなかった授業プランもありました。今回、小学校の先生からいただいた様々な意見に耳を傾け自分の授業の引き出しを広げていきたいと思えます。また、今回の研修では自分の授業の癖に気づくことができました。長所はさらに伸ばしつつ、授業の前にクラス全体で学習内容を確認することや生徒同士の関りを生み出すこと、生徒の意見と板書を一致させることなどを明日から実践しようと思いました。

